

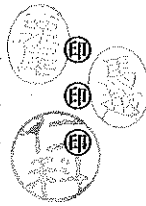
行政視察報告書

平成29年7月14日

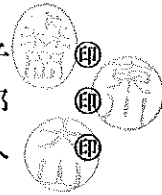
笠岡市議会議長 殿

(出張者) 徳清会

議員 栗 尾 順 三
議員 馬 越 裕 正
議員 仁 科 文 秀



議員 森 岡 聰 子
議員 東 川 三 郎
議員 大 山 盛 久



下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

記

行程

6月28日 移動

6月29日 9時30分～11時30分

福島県いわき市「いわき市新病院の構想・整備」について

6月30日 9時～11時

茨城県北茨城市「家庭医療センター」について

目的

笠岡市民病院の存続、建て替えが重要な課題になっているなかで、新病院の建て替えを進めているいわき市の考えや現状を視察し、今後の病院のあり方、進め方を考える。

また、地域包括ケアの推進が叫ばれるなかで、茨城県が進める総合診療医について、そして家庭医療センター、元気ステーションの取り組みについて勉強する。

【1】福島県いわき市

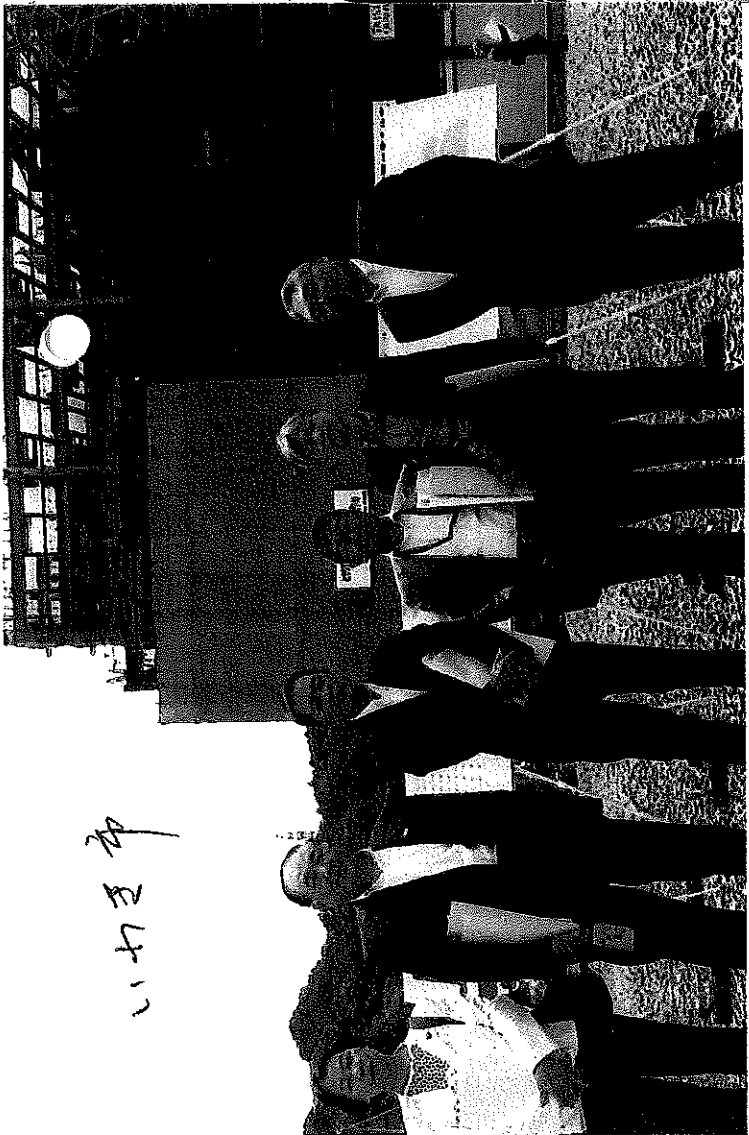
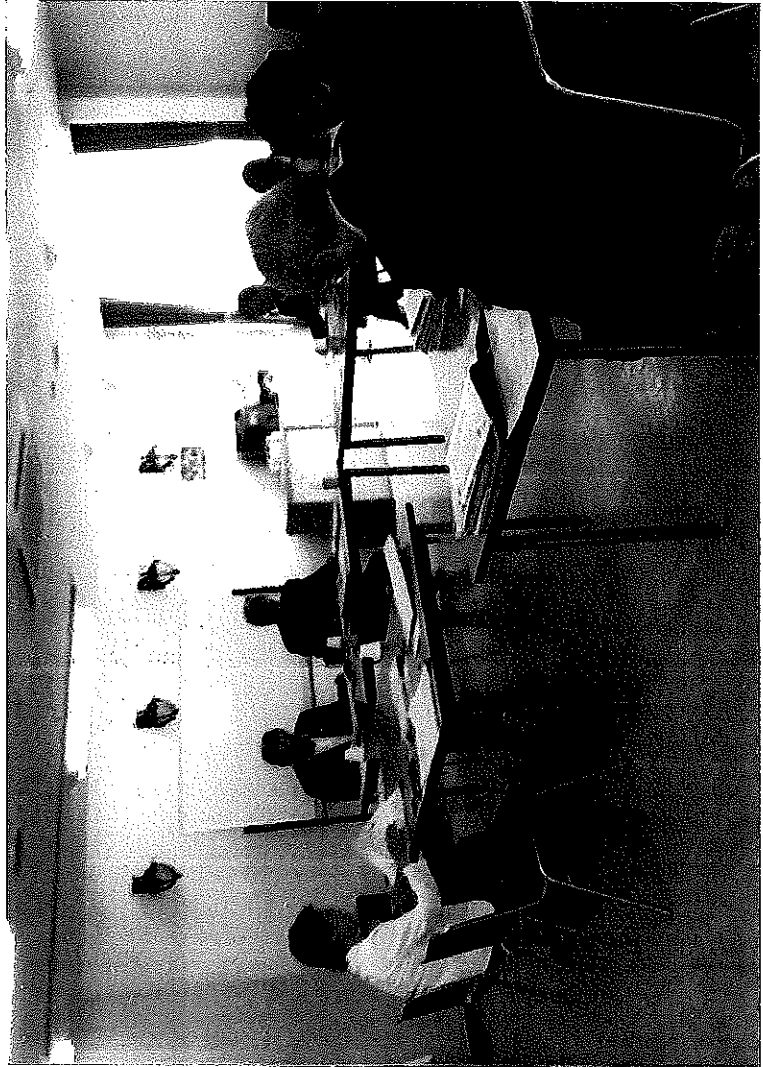
住 所	いわき市内郷御厩町久世原16
電 話	0246-26-3151
視察案件	いわき市新病院の構想・整備について
期 日	平成29年6月29日(9時30分～11時30分)

応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	いわき市立総合磐城共立病院
概 要	<p>●いわき市には、この市立総合磐城共立病院のほかに公立病院があったが、思い切って民間に譲渡しており、基幹病院として、また総合病院としては、この市立総合磐城共立病院が唯一の病院である。福島県の浜通り（いわゆる海側）の病院としては最大の公立病院であり福山市民病院のような存在だと思った。診療科も25科、700床と多い。</p> <p>●東北大学医学部から医者が派遣されており、院長、そして病院事業管理者も東北大学からお願いしている。病院事業管理者は医者であるが、診察はしておらず、病院事業運営に専念している。そこはしっかりされている。</p> <p>●新たな病院整備への経緯 開設は昭和25年であり、昭和40年代以降繰り返し増改築をおこなってきた経緯があり、施設が分散しわかりにくく、一番古い外来棟は築50年経過し老朽化が進んでいる。東日本大震災のダメージもあり、より災害に強い病院が求められている。単なるハコモノの造り替えではなく医療の充実を図りながらハード・ソフト両面で強化に取り組んでいく。</p> <p>●新病院建設事業費・財源 平成29年2月に公表された数字は以下の通り。 事業費（工事関係・・・365.4億円、医療機器整備関係・・・61億円 測量調査・用地取得など・・・13.4億円）計439.8億円 財源（国・県補助金・・・113.8億円、病院事業債・・・315.8億円 自己資金など10.2億円）計439.8億円</p> <p>新病院づくり応援募金として、4月時点までに348の個人・団体から5632万円の寄付を受けている。</p> <p>●担うべき機能 ①高度医療・急性期医療の充実と総合的な診療体制の継続 ②臓器別センターの設置、総合診療科の設置による診療機能の強化 ③地域医療機関との連携強化を図り高度・急性期機能継承 ④優れた医療人の育成</p> <p>●収支計画 開院当初6年間は、減価償却費が多額になることなどから純損益は赤字。</p>

	<p>7年目以降は黒字になる見込み。開院後も単年度現金収支がおおむね黒字で推移し、資金不足は生じないとしている。</p> <p>●規模が大きすぎて、笠岡市民病院には参考になりにくいですが、病院建て替えの構想・取り組み、施設整備の考え方など、参考になる点があった。</p>
	<p>視察資料 視察状況写真 名刺</p>

【2】茨城県北茨城市

住 所	北茨城市中郷町上桜井844-5
電 話	0293-43-1131
視察案件	家庭医療センターについて
期 日	平成29年6月30日(9時~11時)
応 対 者	別紙名刺の通り
視察状況	別紙写真の通り
訪問施設	北茨城市民病院附属家庭医療センター
概 要	<p>●茨城県では、筑波大学が県内一円に「地域医療教育センター・ステーション」を配置していて、北茨城市でも「北茨城市民病院附属家庭医療センター」が設置されている。センター長は女性の医師であるが、まだ30代と思える人で、この医療センターのことをわかりやすく説明していただいた。</p> <p>●医師2人と筑波大学医学部の学生がここに宿泊し、診察にあたっている。ここでは、臓器別専門医ではなく、「まるごと診る」総合診療医であり、この総合診療医の育成に県を挙げて取り組んでいる。総合診療医とは、まるごとずっと診る医者のことであり、近くで何でもいつでも診てくれる医者のことである。地域医療で活躍する医療人を養成することに筑波大学は力を入れている。岡山県とくらべて開業医の割合が少ない茨城県では、かかりつけ医を医療センターが担うことが有効のようである。</p> <p>●医療センターと併設した「元気ステーション」では、コミュニティケアの機能をもっており、市民だれもが子どもからお年寄りまで気軽に立ち寄って健康づくりができる場所である。この春にオープンしている。平日の9時から夜は7時まで開設している。スタッフは保健師、ケアマネージャー、社会福祉士、救命救急士、理学療法士、事務職と資格を持った人員を配置し、市民に安心して利用してもらえる体制を整えている。</p> <p>「まちの相談窓口」「地域づくり」「関係づくり」の機能を有している。6月末までの3か月で1200人を超える利用者がある。健康をキーワードにしたこのような気軽に利用できる施設が笠岡でも望まれる。</p>



いかに

北 京 市

